

3. 生物と人との共生をめざした観察プログラム

<<導入プログラム>>

3-1 トキの森公園でのトキの観察

トキの森公園資料展示室を自由に行動。トキの観察と展示物の見学。
時間を決めて、トキの森公園内の散策も可能です。

2008年9月25日に、トキは試験放鳥されました。日本のトキが全鳥捕獲によって姿を消してから27年目のことです。現在、トキの野生への定着に向けた取り組みが続いています。トキを題材に、佐渡の自然体験、里地里山の保全再生や人の暮らしと自然との関わりなどについて学んでいく上で、「まず最初にトキを見る」という体験を行います。

現在、生きたトキを確実に間近で見ることができるのは、トキの森公園の資料展示室のみとなっています。飼育増殖を行っている佐渡トキ保護センターに隣接し、観察用の設備が整っています。佐渡トキ保護センターへの直接の立ち入りはできません。

トキの森公園の資料展示室には、見学スペースのほか、トキの生態、野生復帰に向けた取り組みや研究などの展示物も揃っており、佐渡とトキの関わりを学ぶ最初の場所として最適です。

■トキの森公園

佐渡トキ保護センターに隣接している広い公園です。日本でただひとつここだけで、生きたトキを直接見ることができます。資料展示館には、トキの骨格標本やライブ映像、ビデオ映像、世界のトキの資料などが展示されています。

所在地 佐渡市新穂長畝383-2

電話0259-22-4123

環境保全協力費

大人200円、小中学生100円。

8:30~16:30まで、12月から3月までは月曜日と年末年始が休館日となります。



所要時間 1時間

■ねらい

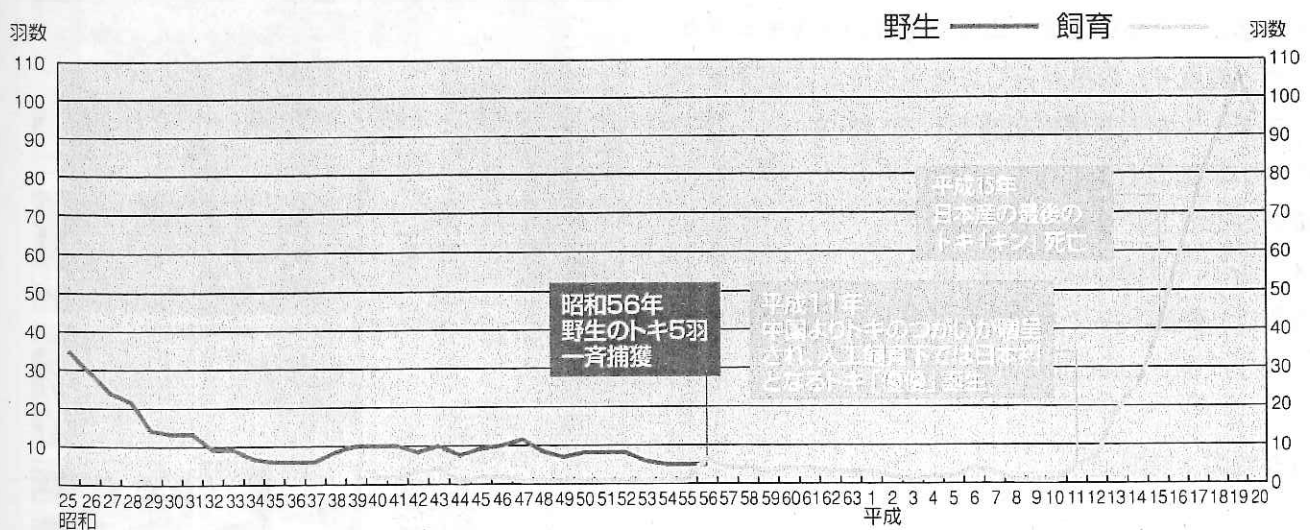
トキの森公園では、トキという野生生物の特徴を子どもたちが自分で把握することに重点を置きます。トキはかつて日本中どこにでも見られた鳥です。狩猟による乱獲や工業化、自然破壊等による生息環境の激減の結果、石川県能登半島と新潟県佐渡島のみにも生息が確認されるようになり、保護活動が続けられました。能登のトキを佐渡保護センターに保護し、1981年に佐渡にいた最後の5羽を一斉に捕獲して増殖のための取り組みに切り替えたため、以来、日本からトキの姿は消えました。同じ1981年に、中国で野生のトキが再発見されたことで、自然環境での絶滅とはなりませんでした。日本産最後のトキ(キン)は2003年に佐渡トキ保護センターで死亡しましたが、中国から贈られたトキによる増殖が成功していたため、日本国内にトキが1羽もいなくなるという状況はまぬがれました。

その後、佐渡トキ保護センターでの増殖は順調にすすみ、2008年には野生復帰ステーションでの訓練が開始、9月の試験放鳥につながります。

この27年の間、佐渡島の環境は大きく変わりましたが、2000年からトキと人が共生できる地域社会づくりの取り組みがはじめられ、トキのエサ場作りとして、ドジョウなど身近な生きものが増えるような田んぼ、農業、ビオトープ、森林整備がはじめられるとともに、地域の人々、子どもたちがトキについて考えるようになりました。

ここでは、トキが田んぼや里山など、かつての日本人の身近な暮らしの場にいる鳥であったこと、エサがドジョウやカエルなど、田んぼとつながっていること、人によって数を減らしたことを学び取り、その後の自然体験を通じて、人と生きもの、人と自然の関わりを考えさせる背景になることをねらいます。

ただし、3-2 トキ交流会館でのトキ野生復帰プロジェクトの講話を行わない場合、人が自然を取り戻す活動によってトキの野生復帰が実現したことを、3-1でインストラクターなどが話す必要もあります。



日本のトキの数 (出典: 環境省)